

～目次～

## 【1】理事長 挨拶

理事長 今井雅子

## 【2】TKK活動

- ・ 2025 年度 実践的アプローチ講習会
- ・ 2025 年度 TKK 主催：医療及び家族相談会

## 【3】加盟団体の活動

- ・ ハイリハキッズ
- ・ 杉並高次脳機能障害者家族会クローバー
- ・ みなと高次脳
- ・ 杜のハーモニー ♪

## 【4】加盟団体から、「伝えたいことコーナー」

“前号から、伝えたいことを投稿していただくコーナーとして登場です”

- |                   |                         |
|-------------------|-------------------------|
| ・ サークルエコー         | 「介護ストレス対策としての「引き出し」づくり」 |
| ・ 明日に希望を灯す動画作成委員会 | 「語ることで、当事者は夢をかなえる」      |
| ・ VIVID           | 「法人とフレスタの紹介」            |
| ・ 東京高次脳機能障害者支援ホーム | 「名前の由来」と「目標」            |

## 【5】行政、他団体の活動

- ・ 東京都財務局 都民投票
- ・ 厚生労働科学研究費補助金事業  
「高次脳機能障害の診断基準の検討とその普及啓発に関する研究」研究班が高次脳機能障害啓発動画を作成
- ・ 区西南部（目黒区、世田谷区、渋谷区）  
高次脳機能障害者支援普及事業 専門的リハビリテーションの充実 講演
- ・ 北多摩南部医療圏（武蔵野市・府中市・調布市・三鷹市・小金井市・狛江市）  
高次脳機能障害地域支援研修会

- ・港区高次脳機能障害理解促進事業講演会
- ・日本高次脳機能障害友の会第21回全国大会2025 in 福井

## 【6】会員の活動紹介

- ・J-STAGE に柴本礼氏の論文

— 各記事の前の ●は活動報告、○は今後の予定 表題の< >はシリーズ開催です —

## 【1】理事長 挨拶

＊＊

特定非営利活動法人 東京高次脳機能障害協議会  
理事長 今井雅子

酷暑、豪雨の被害など、地球が想像以上に大きく変わってきていることを実感する日々です。生態系も大きく変わっていくであろう地球の行く末を憂慮し、これからの子どもたちに対して思いを馳せ、少しでも今できることをしなければと思っています。

コロナもまた流行っていると聞きます。体力が落ちてきている中、みなさまどうぞご自愛ください。

9月からは、「2025年度 高次脳機能障害実践的アプローチ講習会」が始まります。

ホームページ、また <https://forms.gle/P4MjvYzXjdNMLlxz7> からお申込みください。

今年度の「医療及び家族相談会」もあと4回ありますので、そちらもホームページより、日程、場所をご確認の上、お申し込みください。

## 【2】TKK活動

＊＊

### <2025年度 TKK 主催：医療及び家族相談会>

◇お申し込み等詳しくは、TKKのホームページから：[2025年度 TKK 主催 医療及び家族相談会 - TKK](#)

### <2025年度実践的アプローチ講習会> ZOOM ウェビナー開催

◇お申し込み等詳しくは下記から

[2025年度 zoom ウェビナー『実践的アプローチ講習会』 - TKK](#)

◇ お申し込み専用

<https://forms.gle/P4MjvYzXjdNMLlxz7>

今年度2回開催

第1回 日時：9月21日（日）13：00～16：30

受付け期間：8月13日10：00～9月10日（水）17：00

座長：渡邊 修 氏

- ① 『ピアサポートを通じて見えてきた高次脳機能障害者の支援について』
- ② 『地域における高次脳機能障害者支援のありかた』
- ③ 『これからの高次脳機能障害者支援のありかた』

島津 渡 氏  
和田 敏子 氏  
青木 重陽 氏

## 第2回 日時：12月14日（日）13：00～16：30

受付け期間：11月5日10：00～12月3日（水）17：00

座長：渡邊 修 氏

- ① 『介護者なきあとのお金と生活～相談事例とアドバイス』
- ② 『高次脳機能障害のある方への就労支援のありかた』
- ③ 『交通事故被害者への生活指導』

渡部 伸 氏  
稲葉 健太郎 氏  
渡邊 修 氏

---

### 【3】加盟団体等の活動

＊＊

---

#### ハイリハキッズ

##### ○【今後の活動】

9月14日（日）定例会

◇お問い合わせ ハイリハキッズHP

<https://hirehakids.wixsite.com/homepage>

#### 杉並高次脳機能障害者家族会クローバー

##### ○【今後の活動】

9/16（火） バスハイク

10/4（土） 家族交流会

11/8（土） ランチ＆「荻外荘」見学

12/5（金）～7（日） ふれあい美術展参加

◇お問い合わせ：松枝 090-9204-2521

小澤 090-8803-1880

#### みなと高次脳

##### ○【今後の活動】

9月11日（木）交流会（第1回支援員と共に）

<https://www.city.minato.tokyo.jp/kouhou/event/250911-kojinokinoshogairikai.html>

10月18日（土） 外出訓練支援（リフト付きバス利用）

11月30日（日） ヒューマンぷらざまつり参加（港区立障害保健福祉センター全館使用）

12月8日（月） 家族交流cafe（ランチ付き）

◇お問い合わせ： 高井 03-3444-6126

メール： [yykoujinou@honey.ocn.ne.jp](mailto:yykoujinou@honey.ocn.ne.jp)

## 杜のハーモニー♪

### ○【今後の活動】

9/27（土）茶話会 & 相談会 調布市総合支援センター203 室にて 13:00～

12/未定 杜の仲間たちコンサート♪ 日程が決まり次第 HP( <http://morihamo.com> )に UP。

◇お問い合わせ：伊地山 090-3533-5256

メール：[mountone@jcom.home.ne.jp](mailto:mountone@jcom.home.ne.jp)

---

## 【4】加盟団体から、「伝えたいことコーナー」 \*\*

---

### サークルエコー

#### 「介護ストレス対策としての「引き出し」づくり」

＝＝＝＝＝

介護者が倒れたら！？

あなたのご家庭は大丈夫だろうか？

すでにご案内のように、**脳損傷・高次脳機能障害サークルエコー（家族会）**では、いま「**家族介護ストレス**」の研究をしている。会員の方へアンケートをして、それをまとめて「web 集いの場」というオンライン家族会で話し合っている。昨日も開催した。サークルエコーは重度障害者を支援する家族会である。

ご家族はみなさん大変なご様子。

「はっきり言って、行き詰まっている」「もう手いっぱいな状態」

参加された方々からもれてくる言葉には重みがある。

そんな会話が繰り返される中で、ある方から

「もし私が倒れたらどうなるのだろう。誰も当事者をサポートできないよ」との声。

驚くことに、みなさん、激しく同意。何を隠そう私も同じである。

### **重度障害者の介護にはゴールが見えない。というか、ゴールはない。**

さらに言えば、介護に時間が奪われ、自分のやりたいことをしようにも制約されることが多い。参加された方の中には、「コミュニケーションの対象が医療・福祉関係者になってしまっている」という方もいた。

結局、そういうことが根本的な介護ストレスの原因につながっているのではないだろうか。

周囲の方も気の毒に感じているからなのか、あまり当事者家族に声を掛けようとししない。

仮に声を掛けてくれても「大変ね」というのが精一杯で、深く立ち入ろうとはしない。

介護者側も逆に遠慮してしまう。だから、**なかなか「SOS」が言えない。**

「こんなことで困っているんだ。少し協力してくれないかな」なんてとても言えない。

特に、障害受傷直後によく見られる光景である。

わが家の場合、家内が受傷して13年になる。

家内が倒れた当初は、会社でも腫れ物に触るような感じで自分をみているのをひしひしと感じた。

そんな時、ある飲み会で、口の悪い上司から「お前は世の中の不幸を一人でしょっているようにみえるで」と

いわれたことがある。酒宴の席である。回りは一瞬しんと静まり返る。

いくら酒が入っているからといって、人の気も知らずになんてことをいうのだ！ と一瞬思ったが、実はその上司なりの優しさなのだと、しばらくたってから感じた。

確かにそのタイミングではメンタル崩壊寸前であった。きっと自分自身がそんなオーラを出していたから、回りは余計に気を使い声をかけづらい雰囲気になっていたのだろう。とても反省したことを覚えている。

そして上司の言葉。ある意味、落ち込んでいた自分への激励と応援のメッセージと受け取っている。

それでも「世の中の不幸オーラ」はそんなに簡単にはなくなるわけではなかった。あれから10年近くたったかな。ようやく最近になって、少し薄れてきているように思う。

そのきっかけは……。

「自らの情報発信」にあった。

それも、「高次脳機能障害とは」とか「障害者どう向き合うか」というような大所高所からの、学者先生が語られるような話ではなく、「ひとりの人間として、障害者である家内とともにストレスを感じながらも、どう生活を楽しんでいくか」という創意工夫についての発信である。

ひとつの例をあげれば、現在私は、自分自身の悪戦苦闘の介護生活を俯瞰（『高次脳機能障害「私」のトリセツ』）したり、いろいろなチャレンジの様子をエッセイ仕立てで楽しめる読み物をnoteという投稿サイトを通じて発信している。 <https://note.com/tamauzura/m/md9386db2c21d>

高次脳機能障害問題や障害者問題については、全国各地の家族会でもそうそうたる方々が数多くおられるので、こちらにお願いすれば十分であろう。こちらは、もっと生活に即した、より具体的な、創意工夫・試行錯誤の事例を発信する。当然、失敗もある。それはそれで正直に伝える。そういうことを繰り返し発信し続けることによって、「引き出し」という名の選択肢になればと考えている。

そして、介護でお悩みの方がおられたら、その状況に近い引き出しをご覧いただけたら。少なくとも精神安定剤くらいにはならないだろうか。

ちなみに、昨日のweb集いの場で、「なかなかいうことを聞いてくれない当事者、それが高じて高まる介護者のストレス」。そんなお悩みをお持ちの会員の方に対して、賛助会員で、ある大学の助教の方から「**（当事者に）気づきを与える声かけ**」というアドバイスをいただいた。どういうやり方がよいのかは、当事者の状況やそのご家族の環境で異なるだろう。言葉でうまくいかなかったら、

画像に撮って○×を比較してみたりするのもいいかもしれない。いろいろなやり方が考えられるだろう。

大切なのは「**気づきを与える声かけ**」というコンセプトをどこまで具体化するかということ。

正直、十人十色、場合によっては一人十色の高次脳機能障害においては、それはとても難しいことだと思う。ただ、いくつかの「**引き出し**」を準備しておくことは可能であるし重要だと思う。

この問題については、やはり賛助会員で、現在いろいろな場所で活動をされている、元小売業の顧客対応のスペシャリストの方に、web集いの場でお話をうかがうことになっている。

実は**介護と顧客対応は近いものがある**。小売業で働いていた身としてそれは強く感じている。顧客対応の現場でご活躍されていた方のお話はインパクトがある。企画は秋くらいになると思うが、ここからまた新しい「引き出し」が生れることになる。それもとても楽しみである。

しかし、いくら理想は高く掲げても、まだまだ「引き出し」づくりは緒についたばかり。問題も多い。だから多くの方々の知恵が必要になる。介護ストレスの中であって、家族がどう生活を楽しむことができるか。それぞれ環境も考え方も違う。いろいろな方々のご意見・お考えをうかがいたいところである。

最後にもう一度、伺いたい。

**介護者が倒れたら。**

**あなたの家族は大丈夫だろうか。**

**余計なお世話かもしれないが、それぞれのご家庭でご確認していただけたらと思う。**

＝＝＝＝＝サークルエコー代表 玉木和彦

**明日に希望を灯す動画作成委員会（社会復帰支援の動画作成グループ）**

**「語ることで、当事者は夢を叶える。」**

＝＝＝＝＝

**【活動報告】高次脳機能障害を知っていただくための体験談・講演機会が増加中！**

当委員会ホームページ <https://www.asu2kibouwo.com>

7月6日の私たちの定例会で報告された内容から、ご紹介させていただきます。8月1日現在、HP（ホームページ略、以下同）にて10名の方の体験談10話を掲げています。動画を予定されている方が4名になりました。ぜひ、ご覧ください。更に活動が広がっています。是非お読みください。

**目白大学大学院の調査研究への協力**

目白大学の會田玉美先生はじめ3名の研究者により、医療地域連携の課題についての研究が進められています。研究に必要な当事者の体験談を集める取り組みに協力しています。今後も目白大学大学院研究のアンケート調査に協力する予定です。

**体験談発表者が首都医校の講義に参加**

体験談をHPに掲げている当事者3名が、首都医校の講義に参加。高次脳機能障害の生活や勤務の難しさ、個々の障害リカバリーのリアルな取り組みなどを話します。将来、医療に進む方々の能力向上に寄与します。

**丸山隆志先生が大学院にて講義**

当委員会の医療情報を監修いただいている脳外科医・丸山隆志先生。東京女子医大を始め、国内外で活躍中の丸山隆志先生が目白大学院にて非公開にて講演します。脳ネットワークの損傷箇所と障害の発生、体験談の重要性などのお話を語ります。

● 一般公開中、丸山隆志先生の講演動画 [https://youtu.be/KJH-UH80y0I?si=RKQE\\_slZv3VqxRY2](https://youtu.be/KJH-UH80y0I?si=RKQE_slZv3VqxRY2)

**東京都内の区部での当事者体験談紹介**

『脳を損傷した方が、どのように働くのか』『働く際に、どのような問題があるのか』『どのように解決方法を見つけるのか』など、就労について、区市町村各行政団体や自立支援協議会などの団体では課題が多い様子です。年内に1件の講演依頼をいただきました。今後も、講演機会をいただけるよう活動を充実させたいと考えています。

**語ることで、当事者は夢を叶える。参加者募集中！**

体験談を語る。それは、

自己肯定感の充実です。

生きている目的を語ることにあります。

体験談を語った後に、結婚された当事者、  
お店を経営すると語り店主となった当事者、  
日本各地の脳卒中で悩まれる方々と語る場をつくと話して実現した当事者、  
再度経営者となって働く経験を語った当事者、  
陶芸で作ることが好きだと語り再度取り組む当事者。

ぜひ、当委員会にご参加ください。

当委員会にて新たな人生を始めてはいかがでしょうか？

自宅でご参加いただけます。

＝＝＝＝＝明日に希望を灯す動画作成委員会 代表 清水博史

## VIVID

### 「法人とフレスタの紹介」

＝＝＝＝＝

#### VIVID の設立と名前の由来

「人生をあきらめないで、もう一度希望を持ってスタートラインに立ってほしい」。そんな願いを胸に、高次脳機能障がいのある方々を支援するため、2007 年、特定非営利活動法人 VIVID は設立されました。「VIVID」という名前は、エスペラント語で「生きる」を意味します。

#### 活動をしながらかえてきたこと、そしてフレスタの誕生

VIVID は設立以来、高次脳機能障がいとは何か、どんな支援が必要なのかを社会に伝え、理解を深めるための啓発活動に力を注いできました。その中で、継続的な支援の必要性を感じ、2018 年、就労継続支援 B 型事業所「フレッシュスタート目白」（以下、フレスタ）を新宿区に開設しました。

#### 法人の理念

法人の理念は、「障がいがある人もない人も、基本的人権にもとづいて、お互いの人格と個性を尊重し、相互に助け合える社会をともにつくっていきます」というものです。この理念は、フレスタの運営にも深く根付いています。フレスタを利用する方の多くは高次脳機能障がいのある方々ですが、それ以外にも軽度の知的障がいや精神障がいのある方も受け入れています。様々な背景を持つ人々が、互いの違いを認め合い、それぞれの個性や能力を活かしながらか活動できる場所を目指しています。

#### リユースショップの運営

フレスタでは様々な作業を提供していますが、その中でも特徴的なのがリユースショップの運営です。店舗では、近隣の地域住民の方々からの寄付品（食器や洋服、雑貨など）を取り扱っています。利用者の方々は、これらの品物を丁寧にクリーニングしたり、修繕したり、そして値付けをして販売するという、店舗運営に関わる業務に携わります。

#### 店舗運営のメリット

この店舗運営には、多くのメリットがあると考えています。まず、地域の方々との自然な交流が生まれることで

す。商品を寄付や購入してくださる方とのコミュニケーションは社会との繋がりを実感できる機会となります。また、商品が売れることで、目に見える形で成果が現れ、達成感を感じられます。そして何よりも、地域の方々にフレスタの存在を知ってもらい、障がいのある方々が働いている姿を実際に見てもらうことで、障がいへの理解を深めるきっかけになることを期待しています。リユースという環境に配慮した活動を通じて、地域社会に貢献できることも大きな魅力です。

**リユースショップ運営以外にも、様々な作業をしています。**自主製品の製作では、ビーズアクセサリ作りや、刺し子を用いた小物作りなどを行っています。作った製品は、店舗で販売するほか区内の福祉イベント等で販売し、利用者の自信に繋がっています。また、請負作業として、特別養護老人ホームの庭の手入れや、コーヒー生豆の選別作業なども行っています。フレスタでは、これらの作業を通じて、単に「作業をする」ことだけを目的とせず、それぞれの利用者の「強み」や「好きなこと」を見つけ、それを活かせる関わりを大切にしています。

**もう一つの大きな特徴は、利用者と職員、あるいは利用者同士の「会話」が多いことです。**例えばリユース品の値段を決める際には、自然と「これ、いくらが良いかな?」「この状態ならもう少し安くても良いかも」といった会話が生まれます。共通の目標に向かって一緒に作業を進める中で、互いに意見を出し、相談し、協力し合うことは、コミュニケーション能力の維持・向上だけでなく、協調性や社会性をもつ上でも非常に重要だと考えます。また、時には雑談も交えながら、和気あいあいとした雰囲気の中で作業を進めることで、フレスタは利用者にとって「安心して過ごせる居場所」にもなってほしいと思っています。

現在、フレッシュスタート目白では、新宿区内在住の方を対象に、新たな利用者を募集しています。ご興味のある方、まずは一度、見学にいらしてください。

=====フレッシュスタート目白 管理者 遠藤伸

## 東京高次脳機能障害者支援ホーム(略式名称:HiBDy・Tokyo)

### 「名前の由来」と「目標」

=====

#### 名前の由来

高次脳機能障害とは英訳でHigher Brain Dysfunctionと用いられ脳卒中や事故等で、脳が傷ついたあとの後遺症のひとつを意味します。略式名称、HiBDy・Tokyo（ヒブディ・トウキョウ）はその頭文字をとり、そこからきています。

#### 目標

HiBDy・Tokyoでの自立訓練事業の目的は利用者の方々が自立した日常生活を営みながら、主体的に社会参加し、それを継続していけるように訓練を実施することが目標になると考えております。

#### リハビリ病院との違い

機能回復が中心のリハビリから、代償手段の獲得や地域生活の実情に合わせた、より実践的なものになるようオーダーメイドの訓練を実施していることに違いがあると思います。セラピストとのマンツーマンのリハビリから、利用者が主体的に進めていく自主トレ的な訓練に移行していきます。具体的なプログラム作成にあたっては、希望する地域での生活を想定し、利用者とセラピストが相談しながら作成するようにしています。

#### PT,OT,STそれぞれの訓練のありようと各職種のチーム連携

PT訓練では室内での基礎的な訓練だけではなく、外出訓練に力を入れておこない、電車・バスなどの公共交通機関の練習などもおこない、外出範囲拡大を図っています。

外出範囲の拡大は生活がより充実したものになるので、多くの利用者也率先して訓練に参加されています。  
OT 訓練では訓練室の机上課題だけではなく、居室内の掃除や洗濯、服薬管理や金銭管理など、生活の場面となるアプローチも実施しています。

ST 訓練では失語症の利用者を対象に言葉を理解する能力や言葉を表出する能力を向上できるようにリハビリを行います。概ねマンツーマンの訓練を実施していますが、必要時には集団での訓練も行います。

尚、当施設では生活することの全てを訓練であると捉えているため、セラピストだけではなく、各職種がチームとなり、評価や訓練を実施していきます。

当施設は通所は行っていません。入所施設です。入所施設はちょっと……と戸惑われる方でも、当施設でどのような訓練をしているか興味のある方は是非、見学だけでもお越し頂けたらと思います。お待ちしております。

◇お問い合わせ： tel: 03-3925-0088 メール: [nerima-jiritsu@basil.ocn.ne.jp](mailto:nerima-jiritsu@basil.ocn.ne.jp)

==== 自立訓練係 吉越由紀

---

## 【5】行政、他団体の活動

＊ ＊

---

### ●厚生労働科学研究費補助金事業（障害者政策総合研究事業）

「高次脳機能障害の診断基準の検討とその普及啓発に関する研究」研究班が、高次脳機能障害啓発動画を作成、日本高次脳機能学会 HP で5月から公開されています。

イラスト担当は柴本礼氏。吉本芸人のランパンプスさんが分かりやすく楽しく高次脳機能障害を5分で紹介してくれています。

色々な方面にご拡散、ご活用ください。

<https://drive.google.com/file/d/127whpKFPDcEQLsT0kGZn9h0odU-T-wGU/view>

### ○東京都財務局より

みんなの想いが東京都を変える。満15歳以上の東京都在住者が対象の「都民投票」を受け付けています。

投票期間は～8月31日23:59までです。

東京都が募集した都民提案で、「失語症者のコミュニケーション支援」が、事業案の一つに選ばれています。

[https://www.zaimu.metro.tokyo.lg.jp/zaisei/zaisei/teian/tomin\\_touhyou\\_2025](https://www.zaimu.metro.tokyo.lg.jp/zaisei/zaisei/teian/tomin_touhyou_2025)

「失語症意思疎通支援事業の充実を目指す」提案ですので、ご協力のほど宜しくお願い致します。

### ○＜北多摩南部医療圏（武蔵野市・府中市・調布市・三鷹市・小金井市・狛江市）

高次脳機能障害地域支援研修会＞ ZOOM ウェビナー開催

日 時：9/5（金）18：30～20：30

プログラム：講演（18：30～19：30）

医療機関での就労能力評価

慈恵医科大学附属第三病院リハビリテーション科 諏訪部亮太（OT）

症例検討（19：30～20：30）

自宅退院・復職にあたり、2市をまたいだ社会調整を必要とした高次脳機能障害の一例

東京慈恵医科大学附属第三病院リハビリテーション科 小田隆之（Dr.） 鈴木亮祐（OT）

◇お申し込み：URL <https://x.gd/Bm4zf>

## ○＜港区高次脳機能障害理解促進事業講演会＞

日 時：9月6日(土) 14時00分～16時40分

会 場：港区立障害保健福祉センター 6階 多目的体育室

講 師：ジャーナリスト（元キャスター）松本 方哉 氏

タイトル：「突然妻が倒れたら」家族はどう高次脳機能障害に伴走すべきか

～ブラウン管から消えたキャスターが体験した苦難と喜び～

詳細並びにお申し込みは下記から

<https://www.city.minato.tokyo.jp/kouhou/event/250906-kojinokinoshogairikai.html>

## ○＜区西南部（目黒区、世田谷区、渋谷区）

高次脳機能障害者支援普及事業 専門的リハビリテーションの充実 講演＞

「脳損傷者（高次脳機能障害）の方の自動車運転再開について」

Web 開催(ZOOM)

日 時：9/9（火）18：30～20：00

締 切：8/29

◇お申し込み：URL <https://x.gd/aRaJb>

◇お問い合わせ：梅津、中島

Tel 03-3700-1151 Email [seinanbu-kouji@tamagawa-hosp.jp](mailto:seinanbu-kouji@tamagawa-hosp.jp)

## ○日本高次脳機能障害友の会第21回全国大会 2025 in 福井

「感謝を心に、つながる・つなげる支援の輪 ～想いを語ろう、想いを聴こう～」

<https://npo-biaj.sakura.ne.jp/top/top/>

基調講演

柴本礼「つながれている人、つながれていない人 ～その理由と対応～」

・交流会 2025年10月3日（金）18時～20時（会場 ザ・グランユアーズフクイ 3階天山の間）

・大会 2025年10月4日（土）9時35分～16時15分（会場 福井県県民ホール Aossa8階）

---

## 【6】会員の活動紹介

＊ ＊

---

### TKK 会員の柴本礼氏より

5月末に公開済み。

J-STAGE※ に、柴本礼氏の論文（日本文と英文の両方）が掲載されました。

一昨年、柴本氏が認知リハビリテーション研究会にて講演した内容を文章にしたものです。

引用はご自由にどうぞ。

柴本礼「高次脳機能障害者と介護者に必要なこととは ～当事者には居場所を 介護者には支えを～」

[https://www.jstage.jst.go.jp/article/cogrehab/30/0/30\\_2025.002/\\_pdf/-char/ja](https://www.jstage.jst.go.jp/article/cogrehab/30/0/30_2025.002/_pdf/-char/ja)

※J-STAGE：日本国内の発行機関（学協会等）が発行する科学技術（人文・社会科学に関するものを含みます）電子ジャーナルの共同発行プラットフォームです。